

資料2-2

(令和5年度第1回 検討・監視委員会)

郡山折立線(大野田工区) 街路事業

令和5年度 再評価対象事業リスト（街路事業）

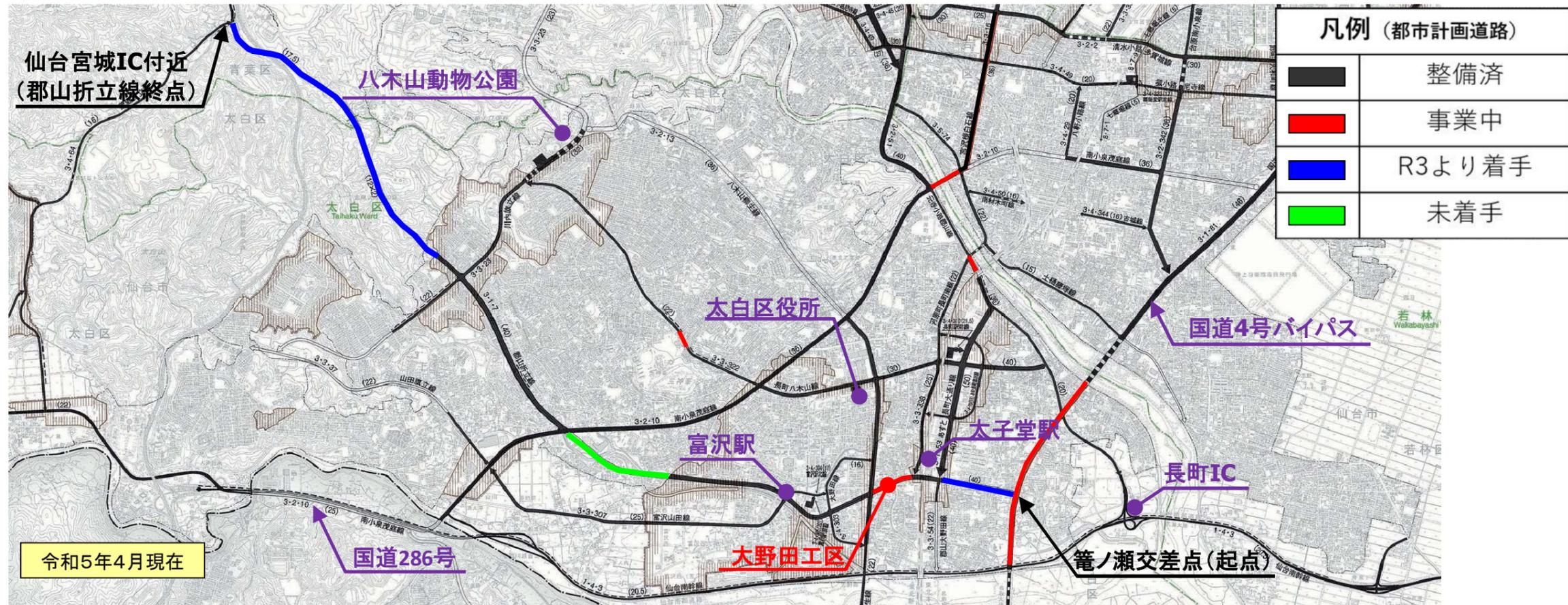
事業名 郡山折立線（大野田工区）街路事業

事業の目的・内容	事業の進捗状況				事業を巡る社会・地元情勢の変化	事業の状況及び今後の見通し	費用対効果に係る要因 の変化の有無 費用対効果(B/C)	対応方針 (案)	備考					
	全 体		H25年度											
都市計画道路郡山折立線は、本市の骨格幹線道路として環状線の機能を担う重要な路線であり、この中で、大野田工区については、あすと長町地区と富沢駅周辺地区を結び、仙台都市圏南部の広域拠点である長町地区における幹線道路ネットワークを形成する区間である。 当該工区の整備により、両地区と一体となって、広域拠点にふさわしい都市機能の集積や土地の高度利用のポテンシャルを高めるとともに、交通の円滑化や防災機能の向上など、快適で安全な住環境を確保するものである。	事業着手年度	H21	H25迄 事業費 (D)	2.3億円	当該工区の起点側(東側)では、あすと長町土地区画整理事業が本年6月に完了し、終点側(西側)では、富沢駅周辺土地区画整理事業が施行中である。また、当該工区周辺では、宅地開発なども行われている。 これらの土地利用の再編等に伴い、当該工区周辺の人口は増加傾向にある。	当該工区は、終点において県道仙台館腰線と接続することとなるが、交差点化にあたっては、富沢駅周辺土地区画整理事業で整備している郡山折立線と一体的に行う必要がある。そのため、当該区画整理事業の完成予定である平成26年度内の交差点供用に向け、現在、終点側(西側)について、平成23年度から用地取得を行っているとともに、本年度より文化財調査に着手したところである。 今後も引き続き用地取得を進めるとともに、取得状況を勘案しながら計画的に道路改良工事を行うなど、平成31年度の完成を目指し事業を推進していく。	・事業全体のB/C B=84.7億円 C=27.8億円 B/C=3.05 ・一年遅れた場合のB/C B=80.9億円 C=27.8億円 B/C=2.91 ・現時点までのB/C B= 0.0億円 C= 2.3億円 B/C=0.00 ・来年度から完了までのB/C B=84.7億円 C=25.5億円 B/C=3.32	事業継続						
	用地買収着手年度	H24	H25迄 用地費 (E)	1.2億円										
	工事着手年度	H26	H25迄 工事費 (F)	1.1億円										
	完了予定年度	H31												
	全体事業費(A)	31.2億円	全体進捗率(D/A)	7.4%										
	全体用地費(B)	25.0億円	用買進捗率(E/B)	4.8%										
	全体工事費(C)	6.2億円	工事進捗率(F/C)	17.7%										
	全体計画	延長 400m 幅員 40m	供用延長・整備率等	0m 0.0%										
	全 体 (変更後)		H30年度							当該工区の起点側(東側)及び終点側(西側)については、土地区画整理事業が既に完了しているところであるが、起点側においては、今後も高層マンションや大型商業施設が建築される見込みであり、終点側においても、富沢駅西土地区画整理事業が施工されていることから、当該工区周辺の需要が高まり、人口がさらに増加していくことが想定されている。	当該工区の終点側において、平成28年より、県道仙台館腰線との交差点化工事に着手し、平成29年11月に供用を開始した。これにより、富沢駅周辺土地区画整理事業で整備した郡山折立線とのアクセスが容易になり、周辺地域とのネットワーク強化が図られた。 今後は、ボトルネックである橋梁の架け替え及び用地取得を推進していく。	・事業全体のB/C B=70.8億円 C=40.0億円 B/C=1.77 ・一年遅れた場合のB/C B=68.1億円 C=40.0億円 B/C=1.70 ・現時点までのB/C B= 0.0億円 C= 15.1億円 B/C=0.00 ・来年度から完了までのB/C B=70.8億円 C=24.9億円 B/C=2.84	事業継続	
	事業着手年度	H21	H30迄 事業費 (D)	13.6億円										
用地買収着手年度	H24	H30迄 用地費 (E)	10.1億円											
工事着手年度	H28	H30迄 工事費 (F)	3.5億円											
完了予定年度	H37													
全体事業費(A)	41.4億円	全体進捗率(D/A)	32.8%											
全体用地費(B)	25.4億円	用買進捗率(E/B)	39.7%											
全体工事費(C)	16.0億円	工事進捗率(F/C)	21.8%											
全体計画	延長 400m 幅員 40m	供用延長・整備率等	93.7m 23.4%											
全 体 (変更後)		R5年度		当該工区の起点側(東側)ではあすと長町地区土地区画整理事業が完了し商業施設や高層マンション等の建築が相次いで行われたこと、終点側(西側)では、富沢駅西地区土地区画整理事業が完了し商業施設や戸建て住宅等の建築が行われたことにより、近年、人口が増加している。現在建築中のマンション等もあることから、更なる人口増加が想定される。 また、本工区の東側では同路線の郡山工区(L=700m)が令和3年度より事業に着手されており、将来は富沢地区やあすと長町地区と国道4号を直接結ぶ道路として重要な役目を担っていくこととなる。	現在、工区中央部の橋梁の架け替えを実施している。架け替えにあたり、仮橋を架橋し交通を切り替えているが、旧橋と比較し容易に車両のすれ違いが可能となったことから、周辺のインフラ整備も伴い、交通量が著しく増加している。今後は、橋梁の架け替えと合わせた上り線の道路改築に向け、並行して用地取得を推進していく。	・事業全体のB/C B=102.9億円 C=56.0億円 B/C=1.84 ・一年遅れた場合のB/C B=98.9億円 C=56.0億円 B/C=1.77 ・現時点までのB/C B= 0.0億円 C= 41.6億円 B/C=0.00 ・来年度から完了までのB/C B=102.9億円 C=14.4億円 B/C=7.12	事業継続	電線共同溝整備費用を除いた場合 ・事業全体のB/C B=102.9億円 C=53.2億円 B/C=1.93						
事業着手年度	H21	R5迄 事業費 (D)	34.9億円											
用地買収着手年度	H24	R5迄 用地費 (E)	25.4億円											
工事着手年度	H28	R5迄 工事費 (F)	9.5億円											
完了予定年度	R10													
全体事業費(A)	50.7億円	全体進捗率(D/A)	68.8%											
全体用地費(B)	27.4億円	用買進捗率(E/B)	92.7%											
全体工事費(C)	23.3億円	工事進捗率(F/C)	40.8%											
全体計画	延長 400m 幅員 40m	供用延長・整備率等	93.7m 23.4%											

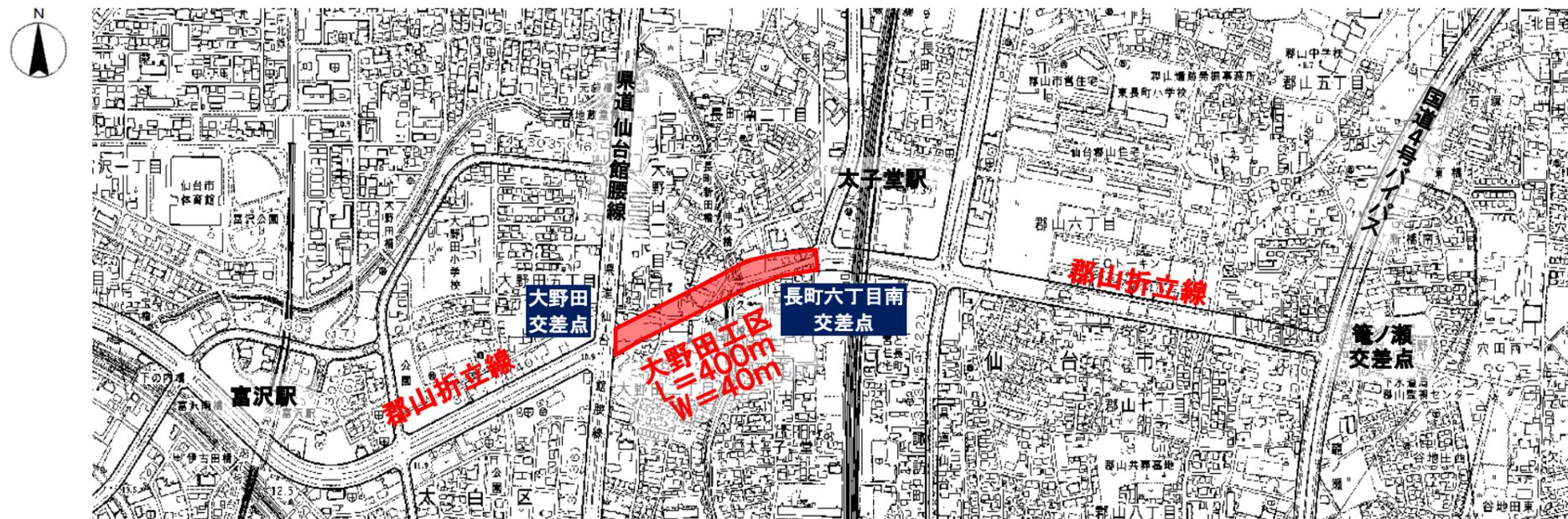
郡山折立線（大野田工区）街路事業概要図

事業名 郡山折立線（大野田工区）街路事業
(各図の配置は任意)

位置図



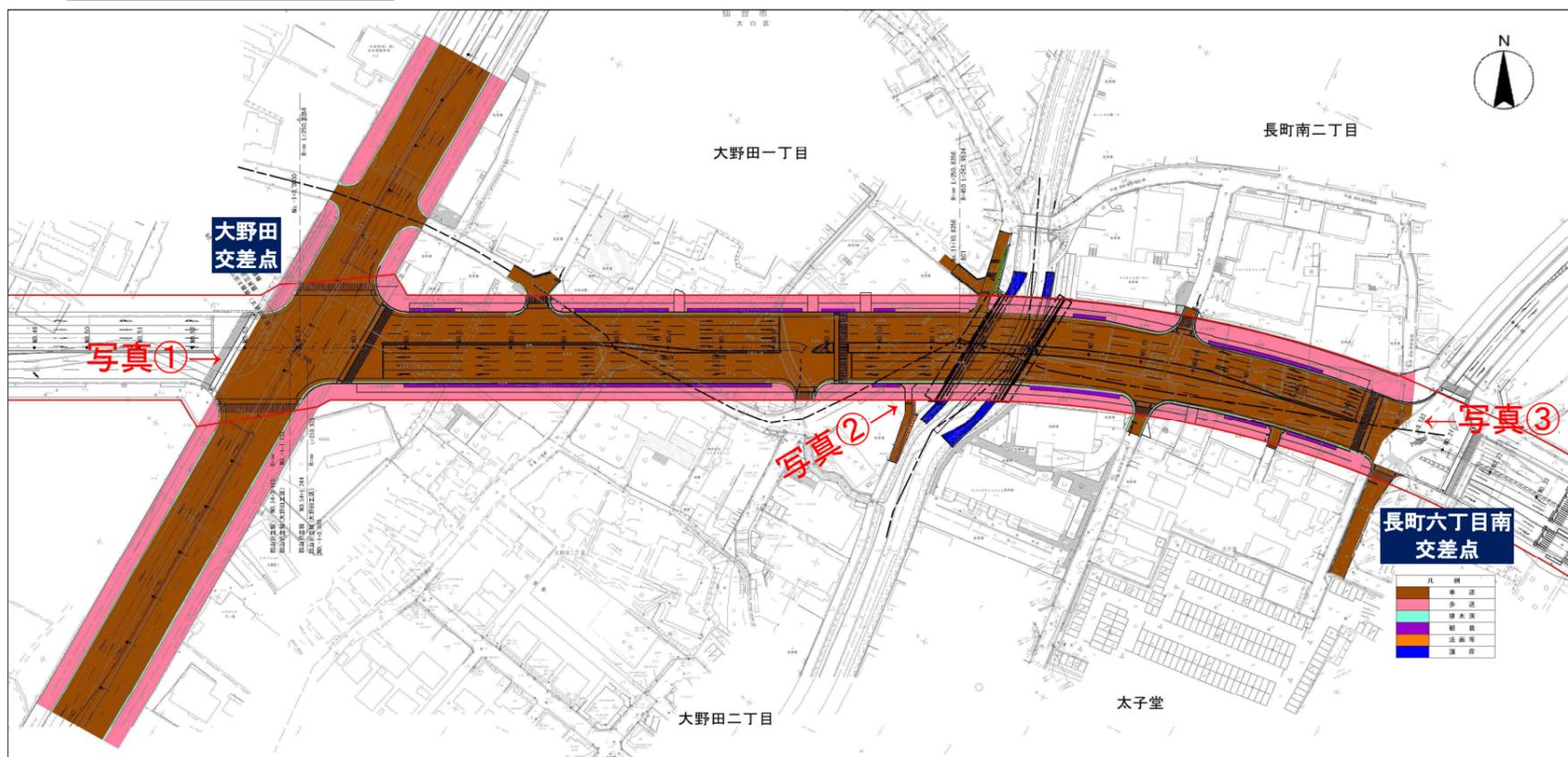
計画概要図



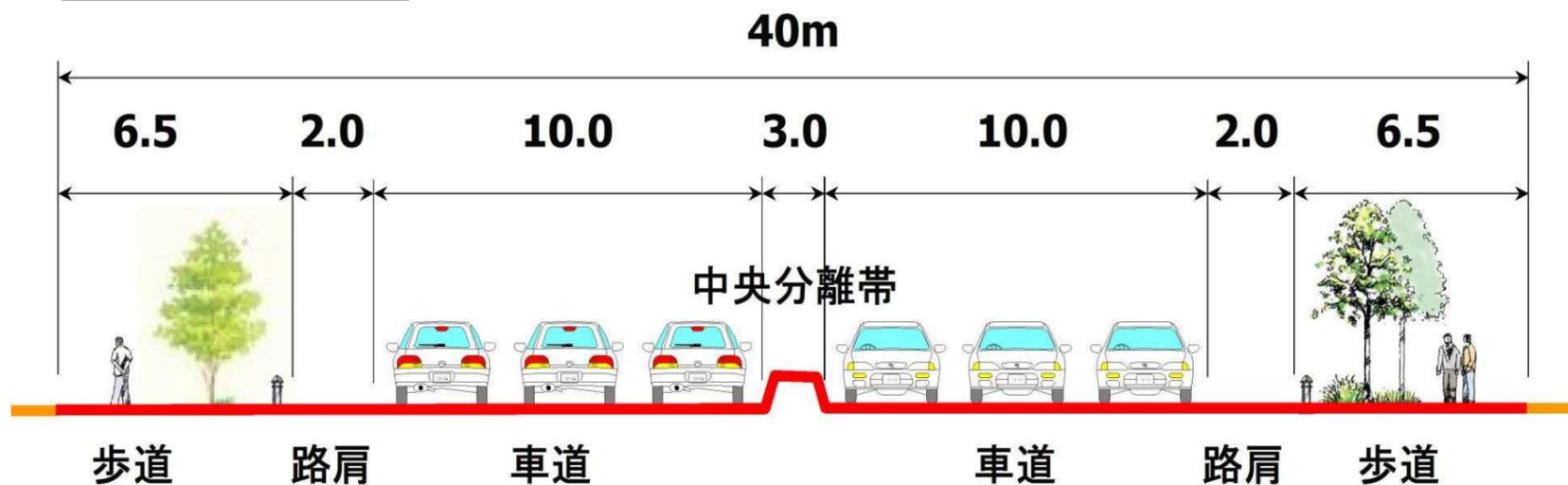
郡山折立線（大野田工区）街路事業概要図

事業名 郡山折立線（大野田工区）街路事業
(各図の配置は任意)

計画平面図



標準横断図



現在の状況

① 終点から起点を望む



② 中間部(橋梁部)



③ 起点から終点を望む



令和5年度 再評価対象事業の問題点等（街路事業）

事業名 郡山折立線（大野田工区）街路事業

これまでの主な事業経過	事業の遅延理由（問題点）等	問題解決までの経過	当面の課題（問題点）等	問題への対応及び今後の見通し	そ の 他
	処 理 済	平成25年度	今 後	平成25年度	
○経過 H21.11.27 第1回説明会 H22.9.3 第2回説明会 H24.1.27 第3回説明会 H24.2.15 地元町内会より陳情書收受 R1.11 第4回説明会 ○事業認可 H24.3.9 当初 宮城県告示第197号 L=400m W= 40m 事業費:33.6億円 H23年度～H30年度 H31.3.15 変更(第1回) 宮城県告示第205号 L=400m W= 40m 事業費:42.4億円 H23年度～R7年度 R4.3.17 変更(第2回) 宮城県告示第242号 L=400m W= 40m 事業費:52.3億円 H23年度～R9年度 ○都市計画決定の経緯 【郡山折立線】 S41.3.3 当初 S53.1.10 線形変更 S54.12.21 路線番号変更 S61.2.28 交差構造変更 H5.12.14 構造・一部線形変更 H7.11.10 起点他変更 H17.9.30 名称他変更	なし	なし	富沢駅周辺土地区画整理事業の進捗に合わせ、県道仙台館越線と富沢駅周辺土地区画整理事業で整備済みの郡山折立線との交差点化工事を施工し、供用開始する必要がある。	関係機関との調整を密に行い、H26年度末の交差点供用に向け、事業を進めていく。	
	処 理 済	平成30年度	今 後	平成30年度	そ の 他
	事業箇所は、家屋等が密集しており、買収に伴い、建物の移転等を要することから、地権者との交渉に時間を要している。	工事に必要となる範囲を計画的に取得し早期の工事着手に努めている。	終点側において、平成29年11月に県道仙台館腰線との交差点を開通したことにより、既存道路の交通量が増加傾向にあるため、橋梁部(阿久戸橋)周辺における車両のすれ違いや歩行者の通行に課題がある。	橋梁部(阿久戸橋)において、南側断面の工事完成後、先行して橋梁南側断面で暫定供用を行うことで、車両のすれ違いや歩行者の安全確保等の課題に対応する。	
令和5年度			令和5年度		そ の 他
	①事業箇所は、家屋等が密集しており、買収に伴い、建物の移転等を要することから、地権者との交渉に時間を要している。更に、多数の区分所有者との契約締結が必要なマンション敷地の買収もあり、手続き等に時間を要している。 ②また、令和2年3月に策定した仙台市無電柱化推進計画により、本工区について無電柱化の推進を図るため電線共同溝の整備を新たに進める必要が生じた。	①左記については概ね解決しており、今後は施工順序に基づき、計画的に用地を取得することで、早期の事業完了に努める。 ②電線共同溝整備と道路改築工事と並行して進めることで、事業期間の短縮を図る。	事業箇所周辺での土地区画整理事業や大型マンション等の建築による人口増加や相次ぐ商業施設の開業、橋梁架け替えのために設置した仮橋の利便性向上などにより、本路線の利用者が著しく増加し、朝夕及び土日に交通渋滞や一部狭小箇所での歩行者の安全性の低下等を引き起こしている。	現在進行中の交通切替を伴う南側橋梁工事を早期に完了させるとともに、用地取得が完了した箇所で歩道を暫定的に整備するなど、開通まで時限的な安全対策を図る。	